

(抜粋)

# 一般研究発表の概要

## 環境福祉学会 第5回年次大会

環境福祉学会第5回年次大会 一般研究発表  
(会場: ホテルケイエスピー、敬称略)

■第1分科会: 709号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 堀 圭一	久留米大学大学院	福祉施設における太陽光発電導入に関する考察 ～福岡県久留米市における環境税に対する意識調査から～
2 平山 葉子	東海大学	コミュニティバスの環境福祉効果と普及の課題 ～秦野市のケースを中心に～
3 中村 寛樹	財団法人日本生産性本部 エネルギー環境部	環境福祉を統合した持続可能な社会づくりに関する研究 ～顕在化する地域環境問題と持続可能な社会論～
4 萩原 元昭	創造学園大学	EDSにおける2つの事例 ～おとなこどもの地域参画の可能性を探る
5 日山 欣也	佐川急便株式会社	高尾「100年の森」プロジェクト～企業が創る森～
6 伊澤 敏彦		環境問題を科学するために

  

■第2分科会: 701号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 篠塚 恭一	NPO 法人日本トラベル ヘルパー協会	「介護旅行」にみる超高齢者の行動欲求～都市高齢者と地域の健康資源を結ぶ「トラベルヘルパー」の役割～
2 福島 音	大東文化大学	街中の設備を利用した転倒予防
3 副田 二三夫	熊本大学	マウスの排尿活動に対する環境要因の影響
4 山崎 宏	日本ブレインヘルス協会	アートセラピーの一環としての「ぬり絵セラピー」: 考察と実践
5 小申 重治	名古屋産業大学	視覚障害者による国土環境モニタリング調査実現の可能性 ～鳥取県奥大山地域における社会福祉・環境保全の統合に むけた事例報告～
6 安川 緑	金沢大学	GardeNursing (ガーデナーシング) ～園芸を機軸とした看護学の構想

  

■第3分科会: 708号室 (7F)		
発表者	所属	演題名
1 相田 啓太	東海大学	割り箸から考える林業の活性化と環境福祉
2 石谷 有里	特定非営利法人 みどりの家	福祉発 異業種コーディネートによる新サービス・雇用・職場づく
3 永井 伸一	獨協中・高	吸水紐を用いた植物の簡易栽培法3 高齢者への癒し効果の検討
4 安原 稔	南国興産	吸水紐を用いた植物の簡易栽培法4 初心者による自動給水での栽培
5 中村 豊子	環境リスク研究会	食のリスクを考える
6 桜井 勝	国土館大学	次亜塩素酸水による福祉施設での新型インフルエンザ防除策

環境福祉学会の第5回年次大会では、「環境福祉による産業と仕事の創出」明日へのまちの発声  
テーマに沿った形で、計18件の一般研究発表が行われる。その主なものについて、予定されている。

### 大会テーマに沿った

#### 福祉発異業種コーディネートによる新サービス・雇用・職場づくり

石谷有里氏  
(特定非営利活動法人  
みどりの家)

障害者の就労支援・生活支援に携わる福祉現場から、事業をハイブリック化し、さらにそれぞれをつなぐハイブリックなネットワーク化し、今までになかった新サービスづくり、仕事づくりの取り組み状況を報告する。企業との連携を図る際には、まず企業ニーズをヒアリングして、福祉側から企画を提案し、分か

「パー、障害者小規模作業所の連携としては、みどりの家の河原田リサイクルセンターで、障害福祉サービス事業(就労移行支援)を手掛ける。具体的には、プラスチック製容器包装ごみのリサイクルを進めている。雇用事業所としては、リサイクル企業、個人有志らによるオレンジ環境プランニング(重度障害者雇用事業所)がある。古紙等選別作業などに取組む。その他の新規雇用事例としては、当施設から施設外授産を経て、製パン事業所への就職や、商業施設内の清掃事業、ショッピングカート回収事業

#### 福祉施設における太陽光発電導入に関する考察

福岡県久留米市における環境税に対する意識調査から

堀圭一氏  
(久留米大学大学院)

日本企業が打ち出した「2020年までに全国の公立小中学校へ太陽光発電を導入」という目標を基に、自然エネルギー導入の拡大策について考察する。

鳥取県奥大山地域独自の環境改善策として、視覚障害者による環境保全

鳥取県奥大山地域独自の環境改善策として、視覚障害者による環境保全

## 江東区がスチロロールごみ再生



地球船クラブ

細野照夫理事に聞く

東京都江東区は来年度から、環境問題に積極的に取り組むNPO法人「地球船クラブ」(東京都文京区)と協働して、家庭から排出される発泡スチロールごみの回収・リサイクルに着手する。ペレットはヨコタ東北に売却するビジネスモデルで、作業員には障害者を採用して福祉対策の一環とする考えだ。同法人の細野照夫理事に、考え方や今後の展望などを聞いた。

## 障害者雇用により福祉政策にも貢献

ヨコタ東北に再生材を売却  
「今回の取り組みの狙いは、障害者の雇用促進とリサイクル推進という環境と福祉の両立」を行政と連携して進めていくことだ。しかも、それが地域の市民や事業者、行政など、域内で完結する地産地消型でできるというところに、大きな意義があると考えている。また東京で手掛けることで、情報発信の力も大きなものになると思う。

